

## シンポジウム I：臨床検査技師養成課程において、真に学びのある連携教育とは？

## 4. チーム医療教育 ーより安全で良質な医療の実現を求めてー

古田 玲子\*

〔Key Words〕 チーム医療教育、医療連携、臨床検査学

### はじめに

近年の生命科学、医学の進展に伴って医療は急速に高度化・細分化し、疾病構造や人口構造も大きく変化してきたことで、医療は複数の医療専門職の知を結集して行わなければ、その実施は困難な状況となっている。医療への社会のニーズも大きく変わり、病気を単に治すばかりではなく診断・治療のプロセス、心理的、倫理的および社会的側面も含め、より安全で良質な医療が求められるようになった。患者を中心とした“良質な医療”の実現には、多種類の医療専門職の協働(チーム医療)が不可欠であり、チーム医療を行う構成員として自身の専門性を活かしながら他職種の人と連携ができる医療人の育成教育が急務である。

北里大学は、薬学、医学、看護学、医療衛生学の医療系の4学部を含む7学部、および保健衛生専門学院、看護専門学校の2つの専門学校を擁し15職種に及ぶ医療専門職を育成する教育を展開している。また、北里大学病院、北里大学東病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターの4附属病院と緊密に連携した臨床教育も行っており、チーム医療教育に好適な条件下にある(図1)。

これら本学の特性を生かし、学部間および学部・病院間の教育連携によるチーム医療教育プログラムを平成18年度より実施している。

本稿では、北里大学のチーム医療教育を紹介し、現在の学生を通してみえてきたチーム医療教育の課題について言及していくこととする。

### I. チーム医療教育について

#### 1. チーム医療教育の概要：一般目標、到達目標

北里大学のチーム医療教育は、「チーム医療論」、「オール北里チーム医療演習」、「チーム医療病院実習」および「国際チーム医療演習」において実施している。

##### a. チーム医療教育の一般目標

チーム医療教育の一般目標は、医療上の問題を解決し、患者を志向した質の高い医療の提供、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画できるようになるために、医療の流れ、医療の構成員、チーム医療に関する基本的知識、技能および態度を修得することである<sup>1)</sup>。

##### b. チーム医療教育の到達目標

チーム医療教育の到達目標は、以下の8つを挙げている。

\*北里大学 医療衛生学部 医療検査学科 臨床細胞学 freiko@kiasato-u.ac.jp

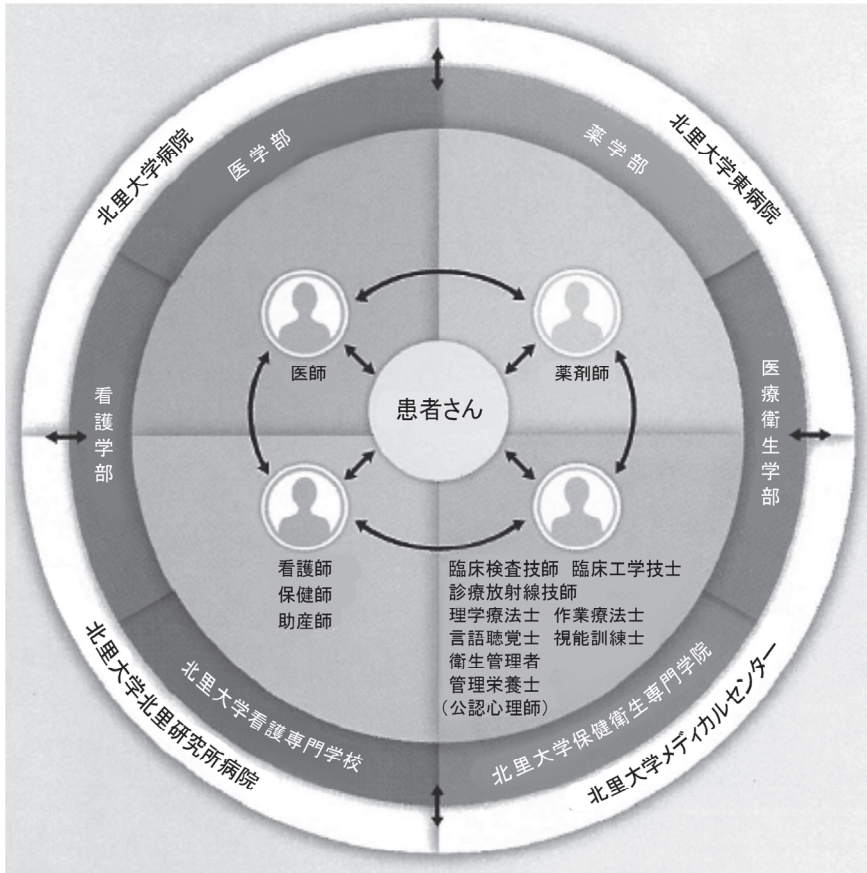


図1 北里大学における医療系教育(文献<sup>1)</sup>より引用)

平成30年度より14職種に加え、医療衛生学部健康科学科において公認心理師のカリキュラムにも対応

①患者の診療過程を理解し、そこに携わる職種を列挙できる。②各職種の専門性、役割および責任を相互に関連づけて説明できる。③チームで取り組む事例を挙げ、職種毎に問題点を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。④チーム医療とは何かを討議できる。⑤チーム医療の目標を説明できる。⑥チームにおける患者の役割を説明できる。⑦チーム医療の立場にたって、医療を考えることができる。⑧チームの構成員とコミュニケーションできる。これらは、卒業後、医療に従事する医療人に求められる必須事項である<sup>1)</sup>。

## 2. チーム医療論

「チーム医療論」は、薬学、医学、看護学、医療衛生学の医療系の4学部の学生を対象とし、1年後期に全15回の講義を病院長、看護部長、薬

剤部長、薬学部、医学部、医療衛生学部の教員など各医療専門分野の教員が担当し、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように、医療の流れ、医療の構成員とその機能・役割、医療倫理を始めとしてチーム医療に関する基本的知識を修得することを目的とした授業内容となっている。この自身のチーム医療に関する基礎知識と認識は、高学年で行う「オール北里チーム医療演習」、「チーム医療病院実習」、「国際チーム医療演習」に繋がっていく。

## 3. オール北里チーム医療演習

### a. オール北里チーム医療演習の教育プログラム

オール北里チーム医療演習の教育プログラムは、チーム医療教育の核となるもので、平成18年度

表1 オール北里チーム医療演習

期間	平成 29 年 4 月 30 日(日)～5 月 1 日(月)
場所	相模原キャンパス
出席学生/対象学生 (出席率)	薬学部 6 年生 240/244 名(98.4%) 医学部 5 年生 116/118 名(98.3%) 看護学部 4 年生 107/108 名(99.1%) 医療衛生学部 4 年生(PT・OT・ST・HS は 3 年生) 379/380 名(99.5%) 北里大学保健衛生専門学院 (管理栄養科・保健看護科 4 年生、臨床検査技師養成科 3 年生、臨床工学専攻科 1 年生) 217/218 名(99.5%) 北里大学看護専門学校 3 年生 37/37(100%) 合計 1,096/1,105 名(99.2%)
担当教職員	学長 1 名 チーム医療教育委員会委員 6 名 チーム医療演習実行委員会委員 26 名(※1) ファシリテータ(学部等教員) 106 名(※2) 事務系職員 34 名  ※1: チーム医療教育委員会委員兼務者を除く ※2: チーム医療演習実行委員会委員兼務者26名を含む

PT: Physical Therapy Course (理学療法学専攻)、OT: Occupational Therapy Course (作業療法学専攻)、  
ST: Speech Therapy Course (言語聴覚療法学専攻)、HS: Department of Health Science (健康科学科)

から開始されている。薬学部、医学部、看護学部、医療衛生学部、保健衛生専門学院(管理栄養科、臨床検査技師養成科、保健看護科、臨床工学専攻科)、看護専門学校の学生が毎年 4 月下旬から 5 月初旬に北里大学相模原キャンパスに集結し、2 日間にわたり演習を行う。他職種の知識・技術、職能等を理解し、職種間の相互理解と連携、協働できる能力や患者を総合的に診る能力を身につけさせるようにカリキュラムが組まれている。

平成 29 年度は、参加学生は、約 1,096 名。1 チームは 10～11 名からなり、全部で 105 チーム(チーム No.1～105)に分かれ、各チームにファシリテータ 1 名を配置して施行した。ファシリテータ 105(+待機 1 名)名を含む演習担当教職員 173 名が当日の演習に携わった(表 1)<sup>1)</sup>。

#### b. チームの構成とディスカッションのテーマ

各チーム、①～⑨(①救急医療、②大災害時の医療、③感染、④がん医療、⑤緩和ケア、⑥在宅療養、⑦高齢者医療、⑧生活習慣病、⑨医療過誤)のテーマのうち 1 つが与えられる。1 チーム

内の構成は、専門分野の異なる学生の混合からなっており、これらのテーマによる模擬患者のシナリオから、前述したチーム医療教育目標達成ができるように進めていく。

#### c. タイムスケジュール

1 日目のオープニングに、学長、各学部長、学院長、学校長および各病院長が列席し、学長から全参加学生に向けて、チーム医療演習の意義を説明することから、2 日間にわたる濃厚な演習が開始される。

1 日目は、105 チームそれぞれの教室に分かれるが、初対面で専門分野が異なる学生同士をリラックスさせ、本題のディスカッションがスムーズに行えるように、ファシリテータがアイスブレイキング(チーム構成員がお互いにうちとけ、知り合うための時間)を設ける。その後は進行役、記録係、発表する学生、発表時の司会や質問する学生を決める。テーマのシナリオを熟読し、どのような医療行為や支援が必要か討議する。わからない専門用語を調べ、各自が専門的に何ができるの

かを考え提案し、チームの一員としての役割を果たすべくディスカッションに参加する。2日目の午後には、パワーポイントのスライドを用いて各チームの合同発表会(優秀チーム表彰)を行う(各チーム、発表10分、質疑応答5分)。また、学生は他チームの司会進行役、質疑応答に参加し発言する。まとめとして、全チーム発表後に各チームで感想を述べ合い、その内容を報告し、最後にファシリテータがコメントを述べる<sup>1)2)</sup>。

#### d. ファシリテータの役割

ファシリテータの役割は、①医療系4学部、保健衛生専門学院、並びに看護専門学校の学生で構成される混合チームにおいて、「学生各人がチームの重要な一員として積極的に参加し、与えられた課題について問題点を考え、解決法を探り、チームとしての成果をまとめて発表する作業」を手助けする。②学生を見守り、学生参加型であることを常に認識し、あくまでも学生の主体性に任せる。③自分の意見はなるべく控え専門的な知識を披露したり、意見を押しついたり、強引に討論をリードしない。④議論の方向性があまりにもそれたり、全く滞ってしまう等、困った時には軌道修正したり、きっかけを作るなどの手助けをすることにある。

#### e. 報告書によるフィードバック

学生の自己評価によるアンケート結果からチーム医療教育委員長、実行委員長が本演習の全体的な成果を解析し、チームディスカッションで取組んだ9つのテーマ別に到達度を分析し報告している。限られた時間を有効に利用するための時間配分を検討し、前年度から方法を変更したところの評価を確認し、翌年度は、さらに充実したチーム医療演習ができるよう、チーム医療演習に関わった教職員にフィードバックがなされている。

#### 4. チーム医療病院実習

チーム医療病院実習は、本学附属の4つの病院において行われる実践的なプログラムであり、平成22年度から開始した。実際の臨床現場におけるチーム医療を学ぶことを目的としており、希望する学生(対象はチーム医療演習を履修した学生)が、8月の夏季期間を利用し参加している<sup>3)</sup>。

#### 5. 国際チーム医療演習

国際チーム医療演習は、国際的な視野と高い専門知識を持った国際社会に通用するメディカルスタッフの養成に取り組むことを目的とし、平成27年度よりスタートした。参加している大学(国)は、平成28年度は、4校(4カ国)で、北里大学(日本)、トーマスジェファーソン大学(アメリカ合衆国)、カレル大学(チェコ共和国)およびFHキャンパスウィーン(オーストリア共和国)である。北里大学からは、医療衛生学部を主体として全学科・専攻の学生〔健康科学科、医療検査学科、医療工学科(臨床工学専攻、診療放射線技術科学専攻)、リハビリテーション学科(理学療法専攻、作業療法専攻、言語聴覚療法専攻、視覚機能療法専攻)〕の中から、有志を募り、また包括的な討議とするため、北里大学の薬学部、医学部、看護学部の学生も参加した。英語を共通語としてディスカッションを行い、発表も英語で行った(図2)。平成29年度は、医療衛生学部、薬学部、医学部、看護学部と、欧米の国際交流6提携校を中心として17名を招聘し、オール北里として実施する予定である。

## II. チーム医療教育の課題

チーム医療教育は、学生がこれから実践に踏み出す前の基礎トレーニングとしての意義は大きく、医療従事者としての自分の立ち位置を認識し、同世代の他種、多職種を目指す学生との交流を深めることで、医療現場での円滑なチーム医療に大きく貢献しうるものと思われる。

医療衛生学部医療検査学科の学生は、4年生でのチーム医療演習が行われる以前の3年生の11月に、感染症をテーマとした「チュートリアル教育」を行っており、6~7人を1チームとし、患者の症状や既往が述べられているシナリオから、これまでに学んだ知識を活かしながら、検査法、診断法を中心に話し合い、コミュニケーション能力を高め、最後にチームでまとめたことを発表するカリキュラム教育がなされており、その経験を経てチーム医療演習に参加している。

患者さんを中心とした、他種、多種職間の連携



国際的な視野と高い専門知識を持った国際社会に通用するコメディカルスタッフの養成に取り組む

平成28年度の参加大学:4校(4カ国)

- ・北里大学(日本)
- ・トーマスジェファソン大学(アメリカ合衆国)
- ・カレル大学(チェコ共和国)
- ・FHキャンパスウィーン(オーストリア共和国)

参加メンバー:北里大学医療衛生学部全学科・専攻より希望者を募集

健康科学科、医療検査学科、医療工学科(臨床工学専攻、診療放射線技術科学専攻)、リハビリテーション学科(理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻、視覚機能療法学専攻)、包括的な討議とするため、北里大学医学部、看護学部、薬学部の学生も参加。

図2 北里大学国際チーム医療演習

により、互いの知識を活かし、情報を共有し、各専門分野での力を発揮することが重要であることは、言うまでもないが、意外と難しいのは同種職間のチーム医療であるようにも思える。

医療技術は日進月歩で発展しており、向上心を常に持ち、高い技術力や深い知識と共に、人間性を高め円滑なチーム医療を遂行していくことが重要である。

教員が成すべきことは、学生に、専門的な知識、技術、職能を教示し、医療人としての自覚を促し、同種および異職種間の相互理解と連携、協働できる能力、患者を総合的に診る能力を養う場を提供することにあるが、まずは教職員が、お手本になるよう、チーム教育に心がけることも肝要であると考え。

## 文 献

- 1) 平成29年チーム医療教育プログラム、北里大学ホームページ  
<https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/academics/feature/learn/team/index.htm>
- 2) 平成29年度オール北里チーム医療演習実施要項、北里大学チーム医療演習実行委員会、2017年。
- 3) 北里大学におけるチーム医療教育プログラムの取組。かながわ政策研究・大学連携ジャーナル No.3, 2012年。